

一九〇二年の晩秋、ヴィーンにカプスという名の青年がいた。陸軍大学で学ぶまだ二〇歳にもならない青年である。自分の素質に合わない学校で学びながら、彼は詩を書いてきた。雑誌に投稿しては、編集部からその詩が送り返されてくる。自信をぐらつかせ、他人の詩と比べてみる。そして自分の詩がいかにどうかに思い悩んでいる。将来に不安を覚えた青年は、思い余つてリルケに手紙を書き送ったのである。数編の詩を添えて。

やがてリルケから長文の手紙が届いた。

「あなたは外へ眼を向けていらつしやる、だが何よりも今、あなたのなさつてはいけないことがそれなのです。誰もあなたに助言したり手助けをしたりすることは出来ません、誰も。ただ一つの手段があるきりです。自らの内へお入りなさい。あなたが書かずにいられない根拠を深くさぐつて下さい。それがあなたの心の最も深い所に根を張っているかどうかを検(しら)べてごらんなさい」(『若き詩人への手紙』新潮文庫)。

時折、講義を聴いてくれた在學生や卒業生から、知らせが届く。コース試験、大学院入試、卒業演奏、留学、コンクール等々、日ごろの研鑽の成果を試す節目がある。首尾よく良い成果を得た知らせには、私もうれしくなる。しかし、意に添わない結果に悩む人たちもいる。

それを聞くと、私も言葉を失う。優秀な人たちであるのに。けれども、ひよつとすると、それはチャンスかもしれない。もう一度初心に帰つて、音楽の喜びと深さ、そして厳しさに思いをはせる機会となるかもしれない。

ふと、リルケの言葉が心に浮かぶのはそんな時である。音楽とは別の分野であるが、私も何度も苦い経験をしているからである。

CD 1週間貸出の状況について

閲覧参考部A V担当

延滞、事故、不正な利用などのケースが多発した場合は貸出期間の再検討を条件に4月より、学生へのCD 1週間貸出が実施されました。今回、4～6月までの貸出状況を報告いたします。

- 学生へのCD貸出の返却期限内返却率は、2009年4月は78.3%、5月は79.3%、6月は84.9%と昨年度(59.1%)を上回る結果となり、さらに月ごとに返却率は向上しています。
- 本年度4月～7月中旬までの延滞資料の督促、返却資料に関する利用者への問い合わせの件数は例年並でした。1週間貸出の実施によって件数が急増することはありませんでした。
- 1週間貸出開始前に予想されていた、資料の利用の競合による「いつも貸出中」というクレームは、4～6月中にはありませんでした。

このように現時点では皆様のご協力のおかげで、貸出期間の再検討をさせるような大きなトラブルはありませんでした。今後も1週間貸出を継続していきたいと思ひます。今後ともこの状況を維持していきたいと考えておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。